# 【取組内容①】「同時共同編集を活用した「対話的な学び」の充実(スライド)」

#### 授業の流れ

- 課題の提示
- はじめの考えを入力
- 友だちの考えをじっくり読む(10分)
- 友だちの考えを参照しながら、ペアやグループになって(自由選択)、話し合い
- 自分の考えを更新する
- 参考にした友達を明記する



- 一人一ページを割り当て
- スライドにすることで、導入問題と考えの入力スペース(「初めの考え」と 「更新した考え」)を同時に記載
- 「はじめの考え」を入力できなかったり、考えが深まらなかった生徒も、友だちの考えを参考にしながら、最後には自分の考えを入力できた

# 【取組内容①③】「他者の考えをもとにした「構造化」の取り組み」

氏名

- 課題の提示
- はじめの考えを入力
- 友だちの考えをもとにク ラスの考えを構造化
- ジャムボードやスプレッ ドシートをもとに、話し 合い活動(必要に応じ
- 構造化された考えをもと に自分の考えを更新
- ※1,2を事前に家庭学習として 行うことで、導入を省略し、 追及の時間を確保した

ある村では赤字を理由に路線バスの廃止を検討している。賛成の意見もあるが、反対意見も多数ある。 あなたは、この件を担当することになった。

①担当者となったあなたは、解決に向けてどんな工夫をしようと考 名簿番号 えますか?

(例) まずはじめに○○して…、(中略)、そして最後は△△して解決す

賛成意見と反対意見がわからないので改善点が分からないので、まずは村民にアンケートを取って、 賛成意見と反対意見がなにか明確化をして、その意見を元に解決していく。具体的には賛成派と反対 派の代表者が集まり、お互いの主張を聞いたり代替案を考えたりして、全員が納得するような結論を∫を手配する)∍お互いの意見に納得したらそれを一度試し、まだなにか意見があったら話し合い、試 出して解決する

人数に応じてバスを小型化し経営費を少しでも抑えるようにする。反対意見はどこをどうすれば 良いのかを聞き取り入れ改善策を提示しバスを残すことに賛成してもらう。

まずは賛成派、反対派の意見を聞いて話し合う。 人が少ないところは廃止したり、運行数などを減らしたりしてできるだけ赤字を抑える。

反対意見を聞いてから村の中で人通りが多い場所を走るようにし、本数を減らして一回に乗る乗客を 増やして赤字を少しでも抑える。

村の人達に話を聞いて、バスの本数を減らすなどの工夫をする。試しで運行してそれでも赤字が出る ようなら村の人に案をだしてもらう。いい案があればそれを提案して村の人が全員納得できるような

②担当者となったあなたは、最終的に解決に向けてどんな工夫をし ますか

※左のように順序立てて入力しましょう。

まず村民にアンケートを取って、賛成意見と反対意見を出してもらう⇒その意見を元に賛成派の人 反対派の人で解決策や代替案を考える(賛成派 赤字で運行が難しい→運行料金を値上げしたり、運 行本数を減らすなどニーズのない区間ははぶいて節約する 反対派 移動するのに路線バスは必要 →路線バスを小型化して燃費を良くしたり、路線バスでなくてもハイエースなど、移動ができるもの して全員が納得する結論を出す

まずは、廃線を考える前に本数を減らしたり、料金設定を見直したり、走らせない日を設けるなどの 試みを行いどのくらいの人が乗ったかを調査しまとめる。そして、賛成派、反対派の人々を集めて 話し合いの場を設けて、そこで解決につながるような意見が出ればその案を改良したりして

運営をつつければ良いし、もしそこで解決につながるような意見が出なかった場合には廃線にし 利用者などに説明をする。 まずは賛成派、反対派みんなの意見を聞き、話し合いにより出てきた解決策を試してみてもう一度、

アンケートを取り、賛成が多かった場合は廃止、反対が多かった場合は運行数を減らしたり、

料金を高くしたりして、できるだけ赤字を抑えて運行を行う。 最初にアンケートをとり全員が賛成だったら廃止、反対意見の人がいた場合は「運行数や運行日を減 らす」「料金を高くする」「利用者が多い地域でのみ運行」などの策を1ヶ月間くらいす。試した結 果を村の人に説明し、再度アンケートをとる。その結果賛成が多かった場合⇒廃止、反対が多かった

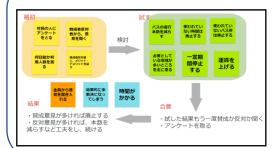
まず運行本数を減らしてみて赤字が解決すれば、そのまま実行し、解決しなければバスを運行するか しないかアンケートを村の人達にする。それで、運行するという意見が多ければどうすれば赤字にな らなくてすむかをアンケートで募集する。募集したものからいい案があればそれを採用する。それで 解決しなければ料金の値上げをして運行する。

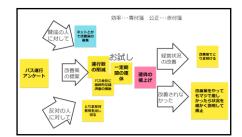
友だちの考えをもとに クラスの考えを構造化

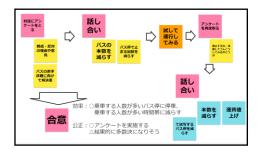




#### 自分の考えに反映



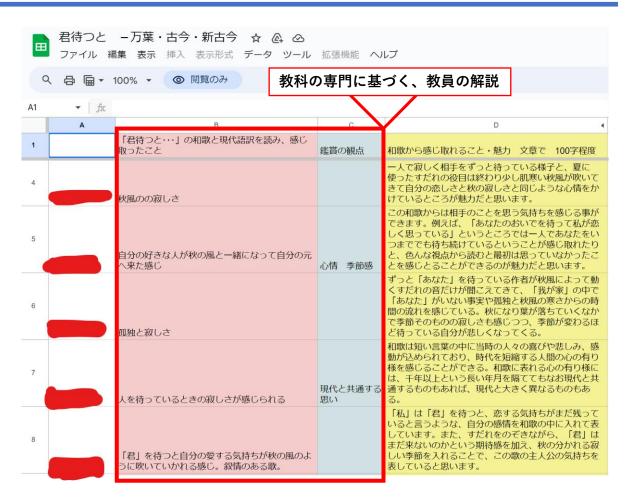




# 【取組内容①】「「対話的な学び」における教員の専門性を活かした授業モデルの創出」

# 授業の流れ

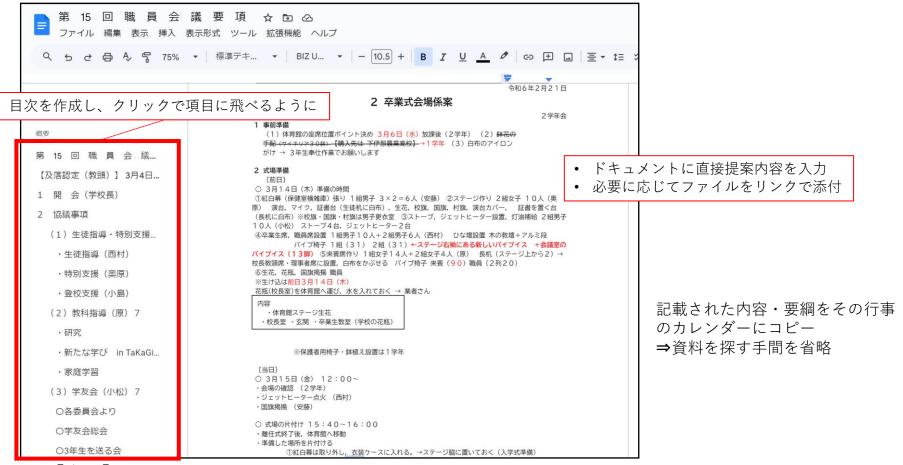
- 課題の提示
- はじめの考えを入力
- 友だちの考えをじっくり読む(10分)
- 教科の専門に基づく、教員 の解説、資料の提示
- 友だちの考えを参照しながら、ペアやグループになって(自由選択)、話し合い
- 自分の考えを更新する
- 参考にした友達を明記する



- 基本は「対話的な学び」の流れに沿って、友だちの考えをもとに自分の考えを更新する
- 専門性の高い内容や、既習事項からつながらない新規性の高い内容の場合には、教員から専門的な解説や、適切な資料の提示が必要になることがある
- 教員主導になりすぎず、生徒の考えをベースに適切なアドバイスや資料提示を調整して くことが、教員の専門性になっていく

# 【取組内容④】「職員会フルクラウド化の取り組み」

係が作成した資料を教頭が収集し、PDF化した後に結合、職員会資料として配布していた。 ⇒ドキュメントに直接各係が入力することとし、収集や結合の作業を無くした



#### 【今後】

共同編集で作成しているため、事前に内容の確認を済ませておき、職員会では内容の読み上げをせず、 会議の簡略化を図っていく

# 【取組内容④】「Googleカレンダーの活用による職員間の情報共有の効率化」

- 職員のみで共有しているカレンダーを作成(生徒は閲覧不可)
- 行事予定や職員動向、部屋予約
- 日報や職員会要綱、行事の要綱もカレンダー上に置くことで、 情報を参照しやすくなった
- 紙での連絡が減り、ペーパーレス化に寄与



#### 【今後】

- 現在は、教頭がほとんどの情報を入力しているが、各職員が入力できるようにしていく
- 部屋予約が重複してしまうなど、改善の余地はあり
- チャットでの連絡と併用して、確認漏れがないように

